



都連青年部通信

部落解放同盟東京都連合会 青年部
2018年 11月号

雇用相談のお知らせ

※緊急の場合はいつでも対応します。労働に係る生活相談等お困りごとがありましたら気軽に相談ください！！

◆内容:国と都の専任の担当者が仕事探しの手伝いをします。

- ①就職や仕事探しのサポート
- ②職業訓練や非正規から正規へのキャリア・アップの相談
- ③失業・求職時の居住や生活費などの生活相談・支援
- ◆費用:無料
- ◆問い合わせは各支部へ！

10月 取り組み

- ◆10月6日・7日『関東ブロック青年交流会宿泊交流会 IN 栃木』
- ◆10月14日(日)『第4回聞取り活動』解放会館
- ◆10月30日(火)『狭山事件の再審を求める駅前情宣』

今後の予定

- ◆11月9日(金)18:00~『都連青年部学習交流会』東京解放会館
- ◆12月15日(土)17:00~『“熱と光”すみだフェスタ2018』墨田区社会福祉会館

11月交流会

日時: 11月9日(金)
18:00~

場所: 東京解放会館
忘年会や、2019年の活動方針など決めたいと思います



都連 HP QR
青年部通信のバックナンバー
が見れますよ~

問い合わせ

〒111-0024
台東区今戸 2-8-5 東京解放会館内
Mail:moyu.k@bllfokyo.net
TEL 03-3874-7311
担当:岸本

— 狭山事件の再審を求める駅前情宣 —

石川さんが不当に逮捕されて55年が経過しました。この間、多くの新証拠を提出し石川さんの無実を科学的にも証明されてきました。44年前の10月31日に出された寺尾確定判決は根底から覆されています。大詰めを迎えている狭山差別裁判を広く世論に訴えるため、狭山共闘青年会議は10月30日、上野駅前で行ない、27名(解放同盟10名、東京清掃労組青年部14名、東水労1名、なんぶ一般2名)が参加しました。

労組の青年が情宣行動へ参加することは、狭山事件や部落差別を知るきっかけにもなります。こうした活動を重ねることで、組織を超えた青年たちが出会い、絆を深めていくことが大切です。



部落解放同盟関東甲信越地方青年交流会 第24回宿泊交流会

10月6、7日に部落解放同盟関東甲信越地方青年交流会第24回宿泊交流会が行なわれ、全体で9名、東京からは5名が参加しました。1日目は、講師に和田献一部落解放同盟栃木県連合会委員長を迎え「山岳信仰」「摩多羅神」「日光三社観現」「日光の被差別部落のルーツ」について学び、フィールドワークの事前学習が行われました。



2日目は和田さんに案内していただき、滝尾神社→輪王寺→東照宮→四本龍寺→日光木彫りの里→六地蔵→首切り地蔵→馬頭観音→罪人供養塔→白山神社の順にフィールドワークが行なわれました。山は神霊の宿る所、山は水源でもあり、川となって人々の生活や水田を潤し、穀物を実らせる。そのため、農業の守護神としてそのパワーを発揮する神とされています。

ご神体である菊理姫の菊をその当時「くく」と読んでいて、「物をくくり結ぶ」意味で、夫婦の縁を二世、三世にわたって結び、現世とあの世を執り結ぶように、すべての調和、深い結合をはかるのが、この神様の持ち分だったといわれています。こうした由緒を知ることによって、お寺や神社を巡るときに見る点が増えて楽しく思えました。



～世代から世代に～ 私が歩んできた道 第4回 聞き取り活動

都連青年部は、第4回聞き取り活動を10月14日、東京解放会館でおこないました。この聞き取り活動は、部落解放運動を支え、長年活躍されてきた大先輩が、どのようなあゆみのもとで今の部落や運動があるのか確認し、記録に残していく事を目的にしています。また、聞き取り活動を通して運動や交流の場を広げていければと考え、都同教、東日本研究所と共同で取り組んでいます。第4回目は、皮革産業に携わるHさん、Iさんのお二人にお願いしました。Hさんは、戦中の疎開政策によって地元を離れ親族のついで滋賀県に疎開し、Iさんのいる地域に疎開したそうです。Iさんは、自身を「終戦1年生」とおっしゃり、戦後の初年度の入学生だったそうです。こうした戦前、戦後の話を聞くと事ができました。支部の結成初期から運動に関わっていた貴重な話もきけました。

「子どもたちには差別を受けて欲しくない。」そんなお二人の思いとともに、部落解放運動を受け継ぎ、差別のない・差別を許さない社会を作っていくなくてはなりません。

Hさん

私は1935年に名古屋で生まれました。父親は6才の時に亡くなりました。4人姉弟。小学校1,2年生までは名古屋にいましたが、1941年の暮れに大東亜戦争がはじまりました。男子を安全な場所に疎開させるとい話がきて、単身一人で親戚のいる滋賀県に行きました。そこで終戦まで過ごしました。名古屋では学校には行けたが貧乏で何もなかったが、滋賀ではなんとか食べていけた。田舎だから激しい戦争はなかったが、怖い思いをしたことがある。当時、白い壁は目立ち恰好の的になるので、黒く塗る様に布告がでていた。近所の寺が白いままだったのだが、そこめがけて機銃掃射がおこなわれた。負傷者はなく、被害もすくなかったのだが、あの音は今も忘れられない。学校では先生に「エタ」と言われました。その時は意味が分からず、親に何も聞かされていなかった。東京に出てきたのは、1951年だったと思う。中学を卒業してすぐおじきに呼ばれて奉公に行きました。10年住み込みで働き、朝6時くらいに起きて10~11時くらいまで働く。正月前などは朝まで働かされた。つらくて何度も逃げ出した。逃げ出すには結婚して独立するしかないと思っていた。結婚を期に独立したが、本当は独立したくて、逃げたくて結婚したんです。その後1969年に同和対策事業特別措置法ができて都連や支部が飛躍的に大きくなった。私が支部に行った時、Iさんは執行委員だった。部落のこと、自分がやってること、言っていないが、子供たちは分かっていると思う。今度話をしてみようかなと思います。

Iさん

私は1941年に滋賀で生まれました。子供ながらに大人の話の話を聞いていると、ここが部落だとなんとなく分かってました。4年生から本校に行くんだけど、勉強できないといじめられるからと、分校では厳し叱ってくれてたと思っています。4年生からは本校通い。4キロの道のりを歩いていくが、途中通る村の子どもたちは、みんな一緒になって登校してたが、私たちの村は、村の子だけだった。中学になると、自分の「立場」が分かってきた。当時全体の高校進学率が80%くらいだったが村の先輩はほとんど進学しなかった。高校に行っても、卒業後近くの工場に働いてました。自分は差別されたくなく行きたくなかったの、東京へ出た。1958年に、東京で働いていた兄のもとに働きに行き、1年後、商売をやりたいから修行をさせてくれと、浅草で住み込みで働くようになりました。ただ、いろんな差別があるなと思ったのは、自分が部落だとは言っていないが、部落の話をしてるところに自分が行くとピタッと話がとまった。7年働いていましたが、社長の息子に麻雀を教えたことが原因でクビになりました。自分も生意気だったから「じゃあ辞めます。」となった。お徳先などに辞めますので、と挨拶をして回っていたら、「お前になら仕事をまわしてやる」と言ってもらい、独立してやっていくことになりました。部落解放運動に参加して、行政交渉やいろいろやりましたね。ただ、そんな中で、皮屋だと差別されるから、子供には継がせたくない、そんなことを言う人もたくさんいましたよ。子供たちに差別を受けてほしくないってのは、その通りですよ。



きねがわスタンプラリー 2018

10月14日(日)に墨田区社会福祉会館、産業・教育資料室きねがわ、都立皮革技術センターの3か所を巡るスタンプラリーがひらかれました。今年は、天気にも恵まれ、600名が参加し大盛況でした。それぞれのポイントで、巾着やストラップ、キーホルダー造りで皮革工芸の体験ができました。お菓子釣りや射的のアトラクションを楽しむことができました。また、展示物も充実していて、きねがわの町で作られた製品や、技術センター内のなめし作業の見学、昔の錦糸町の模型や「よみがえったくろべえ」の絵本の展示、廃校になったきねがわ小学校の生徒が書いた作文集。どれも、見ごたえがありました。スタンプラリーを楽しみながら、豚革なめしNO1であり、皮革・油脂のまち「きねがわ」を体感することができました。

そして、いつも楽しい企画をする墨田支部の“熱と光”すみだフェスタ2018が12月15日開催されます！今年は獄友上映会♪



葛飾支部「第21回子どもまつり」

葛飾支部「第21回子どもまつり」が9月9日、葛飾区同和対策仮奥戸集会所の駐車場を会場にして行なわれ、これまでで一番の127人が参加しました。

開会の挨拶で、模擬店で使える松本治一郎さんのイラストが描かれた「子ども銀行券」の意味について松島支部長が説明。子どもまつりに参加した仲間たちは絶対に差別やイジメをしない子となり、大人になってほしいと語り、そのためにこの仮奥戸集会所があり、部落差別をなくしていくために頑張っている解放同盟葛飾支部があることを参加者に伝えました。

模擬店では、豪華景品が用意された射的とガチャポンは長蛇の列。食べ物では、焼き鳥、焼き肉ハラミ、かき氷が大人気でした。子どもまつり名物の流しそうめんでは、120束が全て完食でした。



さつき会館まつり

「第30回荒川さつき会館まつり」が10月14日(日)に開催され300人以上が来館しました。雨を心配しましたが、ほとんど降らず、たくさんの地域の人が集まり、荒川支部女性部のフラワーアレンジメントの展示や、舞台でおこなわれた催しを楽しみました。

また、ゲームコーナーでは、子どもたちが長蛇の列をつくり、射的や輪投げに夢中になり、喫茶コーナーは、紅茶やコーヒーと手作りクッキーが疲れを癒してくれました。焼きそばの販売もおこなわれ、完売していました。

今回、さつき会館を訪れた参加者は、イベントや交流を通して、人権啓発の拠点としてある会館の位置づけを確認することが出来たと思います。焼きそばも美味しかったです。

